

北九十九島の藻場保全

長崎県佐世保市
北九十九島地域活動組織

1. 地域の概要

1. 地域の概要

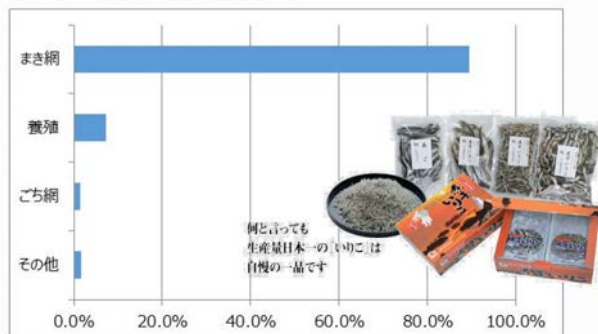


私達が暮らす北九十九島地区は、長崎県佐世保市の北部にあり、西側は五島灘に隣接している。



佐世保市には、ハウステンボス、西海国立公園九十九島があり、自然環境や観光資源に恵まれている。漁業は、まき網漁業や煮干加工が盛んである。

2. 漁業の概要



業態別の漁獲量は、まき網が全体の82%、魚類やカキ等の養殖業が16%、その他2%であり、カクチツを使った煮干加工業などが大変盛んである。

3. 地域（資源）の現状・課題

1. 地域（資源）の現状・課題

- ・平成元年頃から磯焼けが起こる
- ・資源の減少
- ・長崎県の磯焼けの原因は、
①ウニや魚の食害、②海藻のタネ不足、
③栄養塩不足が主な原因。



2. 活動組織設立に至る経緯

平成8年頃から、ウニ駆除やウニフェンス、魚ドームによる藻場保全活動を自主的に実施してきた。
環境生態系保全対策事業から国の支援を受けながら、活動を広げながらさらに精力的に保全活動を実施中！

平成元年頃から、磯焼けが見られるようになり、魚の漁獲量が減少しつつあった。このため、私達は平成8年頃から自主的に磯焼け対策を行ってきた。

4. 活動組織の概要

1. 発足年月日 平成21年9月10日
2. 構成員 340名（メンバーの内訳）
漁業者322名、漁業関係者以外18名



活動場所は、鹿町と小佐々の二つのエリアであり、この中で、保全活動やモニタリング、管理のしやすい場所を皆で協議して活動を実施している。

5. 目標と計画

1. 目標：保護区域内の藻場回復
2. 年次計画（3カ年）
 - 藻場の保全
 - 母藻の設置（ホンダワラ類、ワカメ）
 - 海藻の種苗投入（ホンダワラ類）
 - 食害生物の除去（ウニ類・魚類）
 - 保護区域の設定（ウニフェンス、魚ドーム）
 - アマモ移植・播種
 - 種苗放流
 - 漁村の伝統文化、食文化等の伝承機会の提供（H26）

保全活動の目標は、保護区域内における藻場の回復であり、併せて藻場に生息するアラカブの稚魚の放流や地元小学校への出前授業などを行った。

6. 発揮活動の実施状況

春－初夏 ●ウニフェンス、魚ドームの製作、設置



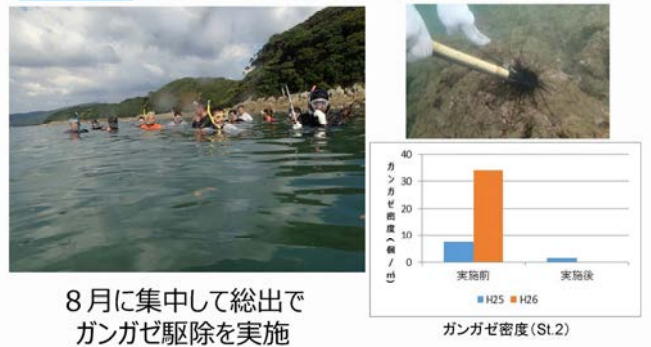
春から初夏には、保護区域を囲むフェンスや魚ドーム（魚の侵入を防ぐ漁網を成形したいけす型の施設）を設置した。

初夏－夏



初夏から夏は、上記の活動を実施。母藻は天然藻場から成熟したホンダワラ類を採取し、スポアバッグ法で対象エリアに設置した。

夏－秋 ●ガンガゼ駆除、モニタリング



8月に集中して総出でガンガゼ駆除を実施

夏から秋は、ガンガゼの生息状況を事前に把握し、主に素潜りにより、鉄筋棒を加工した専用の潰し専用の道具を用いて集中的に駆除を行った。

秋－初冬 ●モニタリング・アマモの播種



秋から初冬は、フェンスの管理、ホンダワラ類の発芽状況の確認、勉強会を兼ねた小学生との協同によるアマモの播種（紙粘土法）などを実施。



アマモ教室が終わった後には、児童からたくさんの感謝の手紙をいただいた。伝えることの大切さを実感するとともに、活動の励みにもなっている。

冬-春 ●魚の駆除、母藻の投入

かご網に餌を入れて木枝を取付け海底に沈める

佐世保市水産センターが採苗した建材ブロックを海底に移植

平成25年1月～3月の植食性魚類の駆除結果

種類	重量 (kg)
植食性魚類	約 10
その他の魚類	約 50

実用面積100㎡、採集量+20%

冬から春はカゴによる植食性魚類の捕獲や建材ブロックに着生したホンダワラ類の移植を実施。カゴによる駆除効果が低く、今後の研究が待たれる。

7. 成果

St.1 : 小学校前のアマモ場

St.2 0.7ha

St.3 1.0ha

アマモは水+0.2m以深から視界が届く範囲では密生域が広がっている。

ウニフェスは形状を維持し概ね良好。アカモクが密生、南方系ホンダワラ類も出現。ガンガゼの密度は1個体/m以下に抑制。

比較的アカモクとヤツマタモクが繁茂。ガンガゼの密度は4個体/m、多いところは9個体/mと駆除が不十分。

概ね保全活動対象エリアでは藻場が維持されている。ただし、拡大には至っていないので、引き続き保全活動を実施したい。

ウニフェス+ガンガゼ駆除+母藻投入+種苗投入

これまでの成果は上記のとおり（小佐々エリア）。昨年の春に磯焼けだった St.2 は 0.7ha、St.3 は 1.0ha の藻場が形成されていた。

8. 新しい取り組み

- ワカメを増やしたい要望が高いことから、ワカメのメカブを利用した母藻投入を専門家(南里氏)の指導で試してみました。

ワカメのメカブ

メカブを日陰で約1.5時間干す

錘の石を入れて海底に15個沈めました

新しい取組として、昨年5月にワカメのメカブの投入を行ったところ、今年1月6日の調査で幼体を確認することができ、効果を実感している。

ご清聴ありがとうございました

一年を通じた活動により対象エリアの藻場は維持されているが、以前の藻場の状況にはまだ至っていない。今後も積極的に活動を継続したい